

印象派を超えた画家たち

従来“後期印象派”と呼ばれてきた画家たちを、20世紀絵画を切り開いた前衛芸術家の第一走者としてとらえ、その視点から解説します。

講師 / 宮本昭義さん（西洋美術史研究者・NHK文化センター名古屋教室講師）

会場 / 豊橋市美術博物館 講義室（定員 70名）

期日 / 平成27年 5月～10月（全4回、14:00～15:30）

第1回 5/16(土) ゴッホ ※友の会総会の記念講演会をかねています。

神々が住まうがごとき理想郷「芸術家村」を南仏アルルと日本に求め挫折。すべての絵に画家自身の情念を叩き込み、絵画芸術に新たな心象の世界を加えた。

第2回 6/21(日) ゴーギャン

有能な航海士・株式仲買人が35歳にして画家に転向。「墮落した」西洋文明を嫌悪、原始に理想美を求めたが、装飾芸術の開拓者としても重要な貢献をした。

第3回 9/26(土) セザンヌ

伝統的様式に基軸を置きつつ、印象派との統一を目指した。恒久的な美の追求と、造形面で多くの実験を試み、ピカソに多大の影響を与え、キュビズムの礎となった。

第4回 10/31(土) スーラ

点描技法を創始したスーラは色彩を固有色から解放し、色彩と線のみで感動や癒しを与え、リズムやハーモニーを奏でるモンドリアンなど20世紀の抽象絵画に道を開いた。

お申込み 電話で美術博物館へ [0532-51-2882]

* 会員及び会員の同伴者は無料、一般の方は1回500円です。